

中高生が未来市長になって考える持続可能なまちづくり  
**8月19・20日、「いちほら未来ワークショップ」**

人口・産業・福祉・交通・環境・財政問題などの未来から今を考え、現市長に提言します

国立大学法人千葉大学のOPoSSuM研究グループ(注)は、持続可能なまちづくりに関する研究開発プロジェクトの一環で、市原市・館山市・八千代市において「未来ワークショップ」を予定しています。今回は市原市と共同で、8月19・20日の2日間、市原市の中高生42名を対象に「いちほら未来ワークショップ」を開催します。

■ワークショップ概要

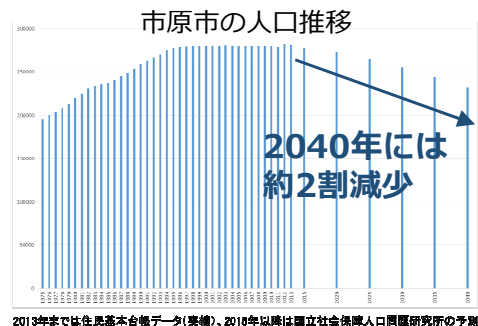
中高生が未来の市長となっているという設定で、少子高齢化に伴う産業構造の変化や環境問題などの観点から、市の現状や将来の課題を把握し、将来世代の立場から、2040年に向けた持続可能なまちづくりについて、現在の小出譲治市長に政策提言を行います。また、その結果は「市原市総合計画・市原版総合戦略」への反映が検討される予定です。

●日時・スケジュール

**1日目：8月19日（水）9:30～17:00**

バスで市原市を回り、未来の市原市の課題を考えます。

- 9:30～10:10 ガイダンス（「未来市長バッジ」の交付など）
- 10:20～11:15 未来シミュレータからみる2040年の市原市の課題の説明
- 11:43～12:10 小湊鉄道にて上総牛久へ移動
- 12:10～12:40 まちあるき@上総牛久駅周辺
- 13:00～13:50 視察① 内田未来楽校
- 14:20～15:50 視察② 出光興産株式会社千葉製油所
- 16:10～17:00 初日のふりかえり・質問作成 @サンプラザ市原



**2日目：8月20日（木）9:30～17:00**

2040年の未来市長として、現市長に「あのとき(2015年)にやっておいてほしかったこと」を提案するためのワークショップをし、実際に小出市長に提言を発表します。

- 9:40～10:30 前日の質問への回答
- 10:40～15:10 未来市長が直面する課題と、現市長への提言に関するワークショップ
- 15:20～16:50 小出譲治市長への提言発表・市長からのコメント



- 会場：サンプラザ市原（市原市五井中央西1-1-25、五井駅直結徒歩1分）
- 参加者：市原市内在住の中学生、高校生42名（定員に達したため応募終了）

注) 千葉大学OPoSSuM研究グループについて

OPoSSuM(オポッサム)とは、「多世代参加型ストックマネジメント手法の普及を通じた地方自治体での持続可能性の確保」(Open Project on Stock Sustainability Managementの頭文字をとって通称「OPoSSuM」)のことで、独立行政法人科学技術振興機構(JST)が推進する戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)、平成26年度新規研究開発領域にて採択された3カ年のプロジェクト。研究グループ代表は倉阪 秀史(千葉大学大学院人文社会科学研究科 教授)。

人口減少・超高齢化社会において持続可能な社会を実現するためには、資本ストック(ひと・もの・しぜん・しくみ)を健全に維持し、継承することが必要であり、そのために、各地域の資本ストックの将来推移を予測し、さまざまな世代が主体的に参画しつつ、それらの適切な維持・管理・活用(ストックマネジメント)を進めることが求められる。

今回、将来世代の意見を聞くという方向性が、総合計画策定を進めている市原市と重なったため、本プロジェクトの実施対象市の1つとして、本ワークショップを市原市と共同で開催することとなった。

※詳細はホームページ：<http://opossum.chiba-u.jp/>